

# 第37回 近畿ジュニア体操競技選手権大会 採点規則 及び 補則

区 分	Aクラス	Bクラス	Cクラス
学年別	中1～中3	小4～小6	I小1～小4 II小5～中3
人 員 (男女とも)	36名 各府県6名(補欠4名)	36名 各府県6名(補欠4名)	60名 各クラス各府県5名(補欠4名)
種 目	割当に満たないところは、他府県より抽選順位により補充する。		
男子	ゆか・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒・鉄棒	ゆか・あん馬(とび箱)・跳馬・鉄棒 オープン・つり輪・平行棒	ゆか・あん馬(ボックス)・とび箱or跳馬・鉄棒
女子	跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆか	跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆか	とび箱or跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆか

種 目	2018年版中学校男子適用規則			2013年版中学校男子適用規則
	2018年 (U-15)	U-12男子適用規則 2018年版		
跳馬を除く全種目				下記記述以外は 2013年版中学校男子適用規則 難度A・Bまでの構成(7技) 禁止技あり・別表参照 難 度 2.10 実 施 7.40 要求グループ な し 加 点 0.50 難度は 0.3×7技 要求グループは な し 加点は 0.5 (熟練性) 技はすべて2回まで認定できる
<b>寸度及び構成要求</b>				
男子	ゆか	時 間 70秒まで	時 間 70秒まで	時 間 70秒まで
女子	あん馬	寸度 115cm	寸度 115cm 高さ50cm(±5cm)の台を使用 台上から55cm(±5cm) ポメル部での両足閉脚旋回10回 (採点規則別項)	ボックス(開催地仕様) 高さ65cm(±5cm)マット上 規定演技 両足閉脚旋回7回 終末は両腕支持 正面支持から正面支持で一周と数える
	つり輪	寸度 265cm	寸度 265cm	
	跳馬	寸度 125cm 跳躍板 スプリング式 2助走1試技	寸度 120cm 跳躍板 スプリング式(2・1・2可とする) 2助走1試技	C I…とび箱(横向き 大or中型) C II…跳馬 スプリング式(2・1・2可とする) 前転とび9.5+ 加点0.5 開脚とび7.5+ 加点0.5 2助走1試技 寸度 C I…100cm±5cm C II…120cm
	平行棒	寸度 185cm(床) マット厚12cm 195cm(床) マット厚20cm	寸度 185cm	
	鉄棒	寸度 275cm	寸度 265cm	寸度 C I…200cm(マット上) C II…245cm(マット上) マットを重ね、マット上からの高さとする

- ※ 器具寸度でマット上等記入のないものは全て床面からの高さ。
- ※ 男子A・Cクラスあん馬の入りでのとびつき台の使用は可。
- ※ 男子の鉄棒でマットに足が触れる身長の高い選手のためにマットをとることは可。

## 男子 禁止技

男 子	Aクラス	Bクラス	Cクラス【C難度以上と下記の技】
ゆか	2018年 中学校男子適用規則(U-15) に準ずる	U-12男子適用規則 2018年版に準ずる	【採点規則のグループIは除く】 宙返り1回以上のひねり技 (後方1回ひねりは可、前方1回ひねりは不可) 2回宙返り
跳馬			宙返りを伴う技 1回以上のひねり技
鉄棒			宙返りひねり下り 2回宙返り下り

上記禁止技は、能力別資格に準じて設定したもので、他の技に対してもそれに準じた考え方をとする。  
万一禁止技を実施した場合は、男女とも次のとおりとする。

Cクラスについて…跳馬の場合は0点とする  
実施した禁止技の難度は認めない。ただし、実施減点はなされる。  
実施した場合、すべてのクラスにおいて各1.000の減点とする。(禁止技を行った回数×1.000)

# 女子採点指針

全体として	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢欠点のない美しい姿勢での演技</li> <li>・高いDスコアの演技</li> </ul>
跳馬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高さや距離を伴うダイナミックな跳躍</li> <li>・着地の体勢が高く、安定した着地</li> </ul>
段違い平行棒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肘の曲がり、膝やつま先の緩みのない美しく伸びた体線での実施</li> <li>・多様な空中局面を伴う技を組み入れ、組み合わせ点を獲得できる演技構成</li> <li>・空中局面を伴う技の大きさと、ひねりを伴う技の正確な実施</li> <li>・終末技の高い体勢での安定した着地</li> </ul>
平均台	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立ち姿勢や歩く姿勢においても手先足先までコントロールされた、常に美しい姿勢での演技</li> <li>・多様な技を組み入れ、組み合わせ点を獲得できるなど高得点を得るための前向きな構成</li> <li>・アクロバット系、ダンス系の技の正確な実施</li> <li>・リズムとテンポの変化があり、技の前の停止や無駄な調整のないスピード感ある演技</li> </ul>
ゆか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢欠点がなく、正確で確実なダンス系の技の実施</li> <li>・立ち姿勢だけでなく床面から足が離れる瞬間につま先が伸びることや手先まで意識された、常に美しい姿勢での演技</li> <li>・演技面を大きく使い、止りや調整のない流れのある演技</li> <li>・スピードや迫力を感じさせる雄大な実施と演技面を大きく使用した躍動感のある演技</li> <li>・複雑で変化のある振り付けと、手や腕だけの動きだけでなく身体全体を使った動きで、観衆を魅了できる芸術的作品として完成度の高い表現力豊かな演技</li> </ul>

## ※ 以下は女子のみ適用

近畿体操協会適用規則以外は、日本体操協会制定の2017年版女子採点規則集に準ずる。

A・Bクラスの各種目で難度表にはないが、変更規則でA(0.10)の難度点として認められる技はCクラスでも同様に扱う。

着地用追加マット(10cm)は必ず置くこと。

女子Cクラスに使用する棒は、高棒のみ・低棒のみ・両棒を使用しても採点には影響しない。

女子Cクラスの段違い平行棒で飛び付く際、補助をしても減点対象とならない。

## 女子禁止技

女子	Aクラス	Bクラス	Cクラス
跳馬			2017年版 4.00P以上の跳躍技
段違い平行棒			C難度以上の技 および B難度以上の終末技
平均台			空中局面を伴うアクロバット系のC難度以上の技 および B難度以上の終末技
ゆか			空中局面を伴うアクロバット系のC難度以上の技 および B難度以上の終末技

上記禁止技は、能力別資格に準じて設定したもので、他の技に対してもそれに準じた考え方をとする。

万一禁止技を実施した場合は、男女とも次のとおりとする。

跳馬の場合は0点とする

実施した禁止技の難度は認めない。ただし、実施減点はなされる。

実施した場合、すべてのクラスにおいて各1.00の減点とする。(禁止技を行った回数×1.00)

## ※ 男女とも難度にとらわれず、質を重視し、正しく・美しい演技を評価する。

実施減点を近畿ジュニアルールとし、女子全クラス小欠点(0.10)・中欠点(0.30)・大欠点(0.50)・落下(1.00)

男子CⅠ・CⅡクラスは小欠点(0.10)・中欠点(0.20)・大欠点(0.30)・落下(0.50)とする。

男子A・Bクラスは小欠点(0.10)・中欠点(0.30)・大欠点(0.50)・落下(0.50)とする。

また、禁止技を行った場合、1.00の減点とする。

## ※ 器具については、大会本部が用意したもののみ使用するものとする。

# 第37回 近畿ジュニア体操競技選手権大会女子採点規則

種目	Aクラス		Bクラス		C I・C IIクラス			
	禁止技なし	寸度	禁止技なし		禁止技:C難度以上(ダンス系を除く)			
女子	跳馬	スプリング 2・1・2も可とする	跳馬 125cm スプリング 2・1・2可	D 最大4.50P 4.50P以上の跳躍技を実施しても4.50Pとする	C I 中型又は大型 跳箱 100cm +-5cm	C II 跳馬 110cm	D 最大3.00P 3.00P以上の跳躍技を実施しても3.00Pとする E 10.00から実施減点(平均台とゆかのみ) * 難度表にない跳躍技での実施はE8.00から実施減点、Dなし	
	段違い 平行棒		高棒 250cm  低棒 170cm	1.低棒と高棒で少なくとも1つ以上の技を実施(開始技と終末技を除く) 2.空中局面を伴う技(終末技を除く) 3.棒に近い回転系の技(空中局面を伴わない) 4.倒立に到達する技 注:低棒から高棒へ移動する開始技は、構成要求2を満たすために使用することができる。  ※低棒から高棒へジャンプして移動する-0.50(削除)	高棒 250cm  低棒 170cm		構成要求はない。但し一技不足毎に0.50減点とする。 開始・終末技は要素でなくともよい * 倒立局面を逸脱することによって 難度が変わる要素に対しては禁止技としない 例:後方シュタルダー倒立・後方浮支持回転倒立など * 技の実施なしで棒を換えても減点としない * 使用する棒は高棒のみ・低棒のみ・両棒を使用しても採点には影響しない * 飛びつく際、補助をしても減点対象としない E 12.50から実施減点	
	平均台	日本体操協会 2017年版	105cm (マット上)	1.180度開脚(前後/左右)または左右開脚屈身のリープ・ジャンプを1つは含む、少なくとも2つの異なるダンス系の技からなる組み合わせ 2.ターン(グループ3) 3.1つの空中局面を伴う技を含む、少なくとも2つの技からなるアクロバット系シリーズ(同一技でもよい) 4.方向の異なる(前方/側方と後方)のアクロバット系の技	105cm (マット上)	演技時間 90秒まで		1.180度の開脚(前後/左右)または開脚屈伸姿勢を伴う1つの跳躍技 2.ターン(グループ3) 3.前方/側方のアクロバット系の技 4.後方のアクロバット系の技 5.終末技はA難度 * 難度表にない開始技を実施しても減点としない E 10.00から実施と芸術性と振付を減点 芸術性(最大0.90) * 芸術的な演技 0.30まで * 構成と振り付け 0.30まで * 立ち姿勢を含む美しい姿勢での演技に欠ける 0.30まで
	ゆか	採点規則変更規則Iを適用	演技時間 90秒まで	1.180度の前後/左右開脚または左右開脚屈伸の跳躍技を1つは含む2つの異なるリープまたはホップ(難度表にある)の直接または間接(ランニングステップ、小さなリープ、ホップ、シャッセ、シネターンが入った)の組み合わせでの移動 2.ひねり(1回ひねり以上)を伴う宙返り 3.前方の宙返りを含むアクロライン(片足踏切の宙返りは除く) 4.後方の宙返りを含むアクロライン * 構成要求の2, 3, 4はアクロラインの中で実施しなければならない	演技時間 90秒まで			90秒まで 1.180度の開脚(前後/左右)または開脚屈伸姿勢の跳躍技を含む2つの異なるダンス系での移動 2.ターン(グループ2) 3.前方/側方のアクロバット系の技 4.後方のアクロバット系の技 5.最後のアクロバット系の技はA難度 E 10.00から実施と芸術性を減点 芸術性(最大0.90) * 芸術的な演技 0.30まで * 構成と振り付け 0.30まで * 音楽と音楽性 0.30まで
	Dスコア			D DV(難度点)は最大2.00とする 構成要求 各0.50P(2.00P) * A難度以上の終末技には、0.5を与える(段違い平行棒、平均台、ゆか共通)				D 5つ以上の難度を入れる DV(難度点)は最大0.50とする すべての難度を各0.10の価値とする 構成要求 各0.50P(2.50P)
Eスコア			E 10.00から実施と芸術性の減点 全種目最大14.50満点とする				E 10.00から実施と芸術性の減点 全種目最大13.00満点とする	